

国立市公共用地境界図作成方法

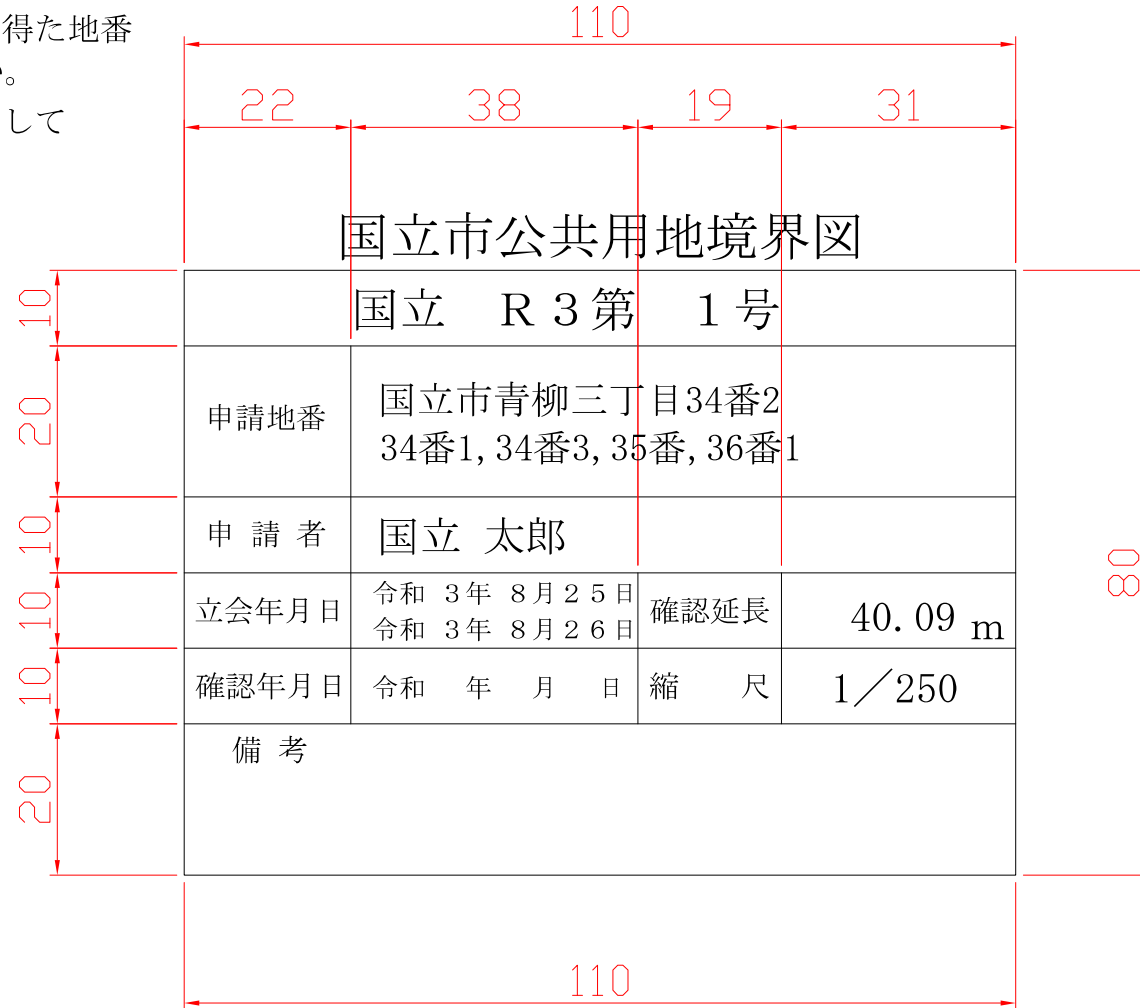
1. 表題部については別紙4によることとし、代表地番を記載すること。
2. 縮尺は、原則として1/250とする。
3. 寸法は、算用数字を用いる。
4. 座標値から寸法を計算する場合、境界線及び幅員の寸法はm(メートル)単位とし、1/100未満切り捨てで表示する。
5. 境界点はP、引照点はS、機械点(多角点)はT、の記号を用い、成果表を設けて各点の座標値(任意座標系でも可)を明記する。
6. 引照点は明確な永久構造物を用い、後日境界点復元に必要十分な点とする。
7. 境界点及び引照点が図面上分かりにくい場合は、詳細図を記載する。
8. 図面の位置取りは、北を上向きとし、方位は北方向に矢印等を記入する。
9. 境界線に接する地番は、算用数字を用いてすべて記入し、私有地側に記入する。
10. 作成者欄は、作成者が記入し押印する。(実務取扱者を置き資格を有する場合、資格番号を記入する。)
11. その他の詳細については、別紙5による。
12. 図面内の土地所有者欄は、実務取扱者が記載する。

タイトルボックス（土地境界図の表題部）について

(単位：mm)

※申請地番の欄には、承諾を得た地番すべてを記入してください。

※確認年月日の日付は空欄としてください。



余白は3cm以上

立会場所・土地の地番	土地所有者 住所 氏名	立会年月日	承諾年月日
国立市青柳三丁目 34番2	国立市谷保〇234番地 国立 太郎	令和3年 8月25日	令和3年 9月6日
国立市青柳三丁目 34番1, 34番3, 35番	立川市錦町〇-〇-18 立川 花子	令和3年 8月25日	令和3年 8月27日
国立市青柳三丁目 36番1	札幌市中央区北4条西〇丁目5-1 大通 樹	令和3年 8月26日	令和3年 8月26日

土地所有者欄作成の注意事項

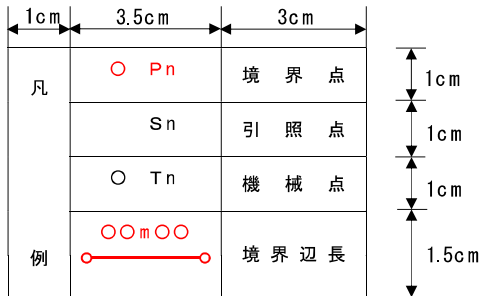
- ◎ 土地所有者の住所・氏名は自筆・押印不要。
- ◎ 承諾年月日は、別途承諾書に本人が記名押印した日とする。

作成者欄作成の注意事項

- ◎ 土地家屋調査士の場合
住所
土地家屋調査士 ○○ ○○ 登録 ○○第○○号
- ◎ 法人の場合
住所
法人名 代表者名
測量業者登録番号
- ◎ 測量年月日は立会年月日の最初の日とする。

作成者	東京都国立市富士見台二丁目100番地の1 国立測量株式会社 代表取締役 青柳 二郎 土地家屋調査士 青柳 三郎 登録第0000号 測量士 青柳 四郎 第H14-0000号
	測量年月日 令和3年8月26日

余白は3cm以上

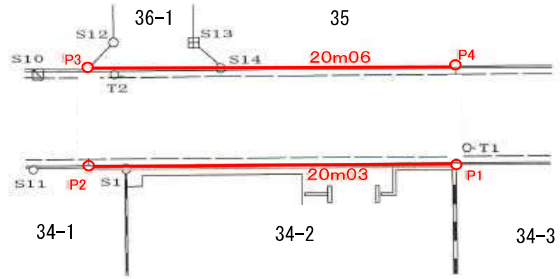


余白は3cm以上

土地境界図		縮尺
土地所在地番	国立市青柳三丁目34番2ほか	1/250

表題部作成の注意事項

- ◎ 承諾した土地所在地番が複数ある場合は代表地番のあとに「ほか」と書く。
- ◎ 隣接市を含む場合は、それぞれの土地所在代表地番を記載する。複数の丁目、字等を含む場合も同様とする。



図面作成の注意事項

- ◎ P点、確定延長数字、確定線は、赤色で作成し、それ以外の部分は、黒色とする。また、凡例欄内についても同様とする。
- ◎ P点は、一重丸とする。
- ◎ 複数の丁目、字等を含む場合は、それぞれの丁目、字等を記入する。
- ◎ 文字・数字の大きさは縦横2.2mm以上で鮮明に読めるように記入する。
- ◎ 石標・プレート等の形状を記入する場合は現形を記入する。

余白は3cm以上

	X	Y	備考
P1			市石 田
P2			市鉄
P3			市プレート 田
P4			みかげ石 田
S1			家屋角
S2			ブロック塀
S3			みかげ石 田
T1			鉄
T2			鉄

座標欄作成の注意事項

- ◎ 世界測地系の場合は、欄外下部にその旨、及び縮尺係数を記載する。
- ◎ 石標・プレート等の形状は現形を記入する。

余白は3cm以上

国立市公共用地境界図

国立 R3第1号			
申請地番	国立市青柳三丁目34番2 34番1, 34番3, 35番, 36番1		
申請者	国立 太郎		
立会年月日	令和3年8月25日 令和3年8月26日	確認延長	40.09m
確認年月日	令和 年 月 日	縮尺	1/250
備考			